

2004 年 9 月 27 日 15:00 - 16:30

講演者 加藤 好郎氏（慶応義塾大学三田メディアセンター事務長）

テーマ 「大学改革と専門職の必要性:国際化の見地から」

講義の焦点：

大学のグローバル化のために、1) 大学は何をすべきか、2) 大学図書館は何をすべきか。

1. 日本の国際化（高度な学習社会の構築）

福沢諭吉の功績、異文化コミュニケーション、グローバリゼーションについて。

- 価値観が常識へ、それが文化へ、行動・言動へと変わっていく。つまり行動を理解するには文化を理解することであると説く（「たくわん」の例）
- 成果主義への発想の転換
誰が、いつから、何を、どのレベルのところまでを担うか、を明らかにする。
（例：5年計画のいつまでにどこまで成し遂げるか、など）

2.大学の国際化

大学の役割とは何か

- 倫理観の養成、人格形成、教養を身に付けさせる場となる。
- 学問の必要性を認識させる。
- クリエイティブな人材の育成を目的とする。

留学生を受入れる大学の体勢づくりを行うためにも入学審査からの見直しが必要である。また企業と大学の関係も変わっており、今後大学は、ますます社会的に知の創造拠点としての役割を担うことになる。大学職員にも国際化が求められており、より専門性を追求して言うことが大切である。

メモ：日本の留学生数（2003 年度）

109,500 人（うち中国 7 万人、韓国 1 万 6 千人、台湾 4 千人）

アジア 93.2%、欧州・米国 3.9%

3. 大学図書館の国際化

大学図書館は、生涯教育を含む情報リテラシー教育の充実や E-learning のコンテンツ作成、留学生サービス等の更なる教育支援をする一方、研究支援を行う必要性がある。

9 つの専門職の確立（Director, Bibliographer, Archivist, Systems Librarian, Cataloger, Reference librarian, Serials Librarian, Digital Librarian, Electronic Librarian）

図書館は、貸出等のサービス機能だけでなく、コミュニケーションを図るための施設の提供へと推移してきている。

4. 専門職の育成について、慶応義塾大学図書館のさまざまな研修の紹介